

第5回 高砂市庁舎整備検討委員会 会議録

- 1 開催日時 平成28年2月25日(木) 午後7時00分～午後9時05分
- 2 場 所 高砂市役所南庁舎2階会議室2
- 3 出席者
(委 員) 八木委員長、濱野副委員長、都倉委員、宮本委員、増田委員、
寺延委員、新井委員、馬場委員、吉田委員、藤原委員
(事 務 局) 副市長、企画総務部長、企画総務部総務室長、企画総務部総務室総
務課長、まちづくり部まちづくり推進室長、まちづくり部まちづく
り推進室建築指導課長 他4名
(同席) 株式会社昭和設計 2名
- 4 傍 聴 者 1名
- 5 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 委員長挨拶
 - (3) 議題
 - ① 高砂市庁舎整備計画基本構想(素案)について
 - ② その他
 - (4) 閉会
- 6 配布資料
 - 資料1 高砂市庁舎整備計画基本構想(素案)【概要版】
 - 資料2 高砂市庁舎整備基本構想(素案)についての意見公募

7 会議録

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>1 開会（午後7時00分）</p> |
| 委員長 | <p>2 委員長あいさつ</p> <p>委員長を仰せつかっております、八木でございます。今回5回目を迎えました。会を増すごとに議論が深まってきているのではないかと思います。お手元の資料、提言書を出しましたのも1年以上前となり、一昨年の12月ということになります。そこから基本構想が策定されつつある段階で、今日の委員会を迎えたということになります。皆さんの忌憚のないご意見を頂きまして、議事が進行しますことを願っております。宜しくお願い致します。</p> <p>それでは議事に入りたいと思います。まずお手元に今日の委員会の次第があるかと思えます。その3のところ議題が登場してございます。議題の1番目になりますが、高砂市庁舎整備計画基本構想（素案）についてということですが、概要版ということですが、こちらの方を元にして事務局からご説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 高砂市庁舎整備に関する提言書の検証結果について</p> <p>事務局より説明</p> |
| 事務局 | <p>本日の議題の1つ目についてご説明を申し上げます。この新庁舎の整備の検討につきましては、先程委員長からもお話がありましたように、一昨年の12月に、この委員会から提言という形で提出を頂いております。市の方としまして、その提言書の中身を検証しまして、昨年8月にその内容を報告させて頂いたところです。市において検証内容をもとに検討を加えまして、市の方向性として、庁舎については建替え、候補地については、いろいろ事業費用また早期の整備が必要であるということから現地建替えが有力な案であるという考えをもちまして、市民の方々に昨年の11月から順次ご説明をさせて頂いております。またアンケートも実施しましてご意見を頂いております。市民の皆様からはいろいろな意見を頂いておりまして、現地建替え、または移転建替え、それぞれについて様々な意見も頂いております。これらの意見を踏まえて検討した結果、早急に耐震性を確保し、健全な財政運営を図る必要があるということから現在の庁舎敷地で建替えるということを取りまとめて現在作業進めております。</p> <p>お示ししております庁舎整備計画基本構想を作成しております。この現地建替えということについては、現在開会する3月定例会につきましても、市長の冒頭の施政方針の中でも明らかにしております。また、この計画策定を準備していますが、この構想案についても現在市民の皆様からの意見を聞くということで、パブリックコメントというものも実施しているところでござい</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>ます。また、議会においてもこの3月定例会で報告を予定しております。本日はこの内容について、このあと担当者から詳しく説明をさせていただきますので、ご意見を頂き構想案に反映をさせていただきますのでよろしくお願いたします。</p> <p>事務局より「資料1 高砂市庁舎整備に関する提言書検証報告書」説明</p> |
| 委員長 | <p>ご説明ありがとうございました。説明が終わりましたので、委員の皆様からご意見を頂きたいと思っております。かなり専門用語もございますので、そういうことも含めてご意見頂ければと思っております。</p> |
| A委員 | <p>最後の12ページに市民と一体となった庁舎づくりと明記されていますけど、昨年各地域で市民説明会を実施しましたですね。それに対して行政の考え方、解釈の仕方というのを一回聞かせて欲しいのです。というのは、非常に人数が少なかったみたいですね。私が最終日に中央公民館にどんなものかと一応参加させて頂いたんですけども、その時は5名だったんですね。そのうち市会議員の方が2名で、3名のうち私が構想委員会、ということは全くの市民はたったの2名だったわけなんですね。そういうような説明会が各地でされて、どれくらい的人数が集まって、その手応えを、そういうのが私共知りたいと思っております。</p> |
| 事務局 | <p>昨年11月7日と8日に市内の8地区の公民館で説明会を開催するという事で、市の広報にも載せて開催を行ったんですけども、実際参加者の方が非常に少ない状況でございました。市民の方の参加というのが8公民館で67人の方の参加がございまして、その中でのご意見としては、現地建替えとか移転建替えという意見がございましたけども、移転の建替えの方が67名のうち38名いらっしゃって、現地の方が6名と。それ以外の方ははっきりとしたお答え頂かなかった状況です。それから、我々も、説明会に来て頂いた方が非常に少なかったため、各地区の自治会の方、または老人クラブであるとか、そういう会合に説明に出向きまして、いろいろ説明を行っております。市民説明会以外にも説明会を行いまして、約180名の方々にご説明をさせていただきました。その中でもいろいろ意見がございましたけれども、意見の内容としましては、移転での建替えが良いという方については180名のうち75名、現地という方々は82名ということで、双方が同じぐらいになっております。いろんなところでアンケートも実施し、この整備検討委員会に置きましても、市民アンケートも行っております。それら全ての方々の意見としましては、全部で988名の方のご意見を伺いまして、そのうち現地在が631名、移転が252名という結果になっております。これは最初の</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>市民アンケートの結果が78%の方々が現地建替えというような結果もございましたので、今言ったような数字の結果になっております。</p> <p>各会場、私と総務室長が行って参りました。冒頭言いましたように、まず市政だよりの方で募集をかけたときに高砂市としては現地で建替えるという方向で考えている。で、意見のある方はというような呼びかけで集まってもらいましたので、やはり現地で建てることに反対の方が多くおられたという状況にあります。ただ残念なのは、意見として出たのが現地か移転かという議論だけで、どのような庁舎を建てていくということにはあまり言及して頂けなかったのは非常に残念であります。例えば、市民に開かれたとか、そういう具体的なことについての意見はなかなか聞けなかったというような状況ですね。総論では外に出るのが良いのか、現地で建てるのが良いのかというような議論になってしまいました。そういった中で、今総務室長が言いましたように、意見の中では、市はここで建てるということを持って出ましたので、割と反対意見も増えて来たというような状況でございます。以上です。</p> |
| A委員 | <p>今言われたことは良くわかるんですけども、市としまして、人数の少なさはどうも思わないのでしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>事務局だけの意見になりますけども、市としても残念だったなど。総論的に、もう少し関心をもってご意見を頂きたかった。一番大きかったのは、アンケートにはかなりの回答率を取って、有効なアンケートができた。この委員会のなかで取りました一番最初のアンケートですね。結構いろんなご意見頂いたのですが、その次現地へ出向いて行ったときの人数の少なさとか、ご意見の少なさも含めまして、余り市民の皆様は庁舎の建替えにつきましては余り積極的に関心が無いのかなというような感じを受けました。で、最初の質問の中にございましたけども、今後の設計の中で最後に書いていますが、行政職員が単独で事務をするような部分については別に意見を伺わないにしても、市民の皆様が活用できる空間とか、一番よく訪れるような空間についてはワークショップなどを開催し、またこういった委員会、引き続きするかといったことも検討しながら市民意見を基本設計のなかで取り入れる、というステップも考えております。</p> |
| B委員 | <p>現地建替えという形のもので、いろいろと考えてみますとやはり今のところは現地建替えということでやむを得んかなとも思うのですが、この中で新庁舎と既存の南庁舎と西庁舎を使うということで、工事中のことも考えれば大概そこで業務を行いながら新庁舎をするということもわかるんですけど、それ</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>をまた残して、使うとなると、最初の市民アンケートでも出ていたと思うのですが、誰でも使いやすい庁舎ということですね、市民のサービスをするということを考えれば、これを残してまた使うとなるといろんな業務で、渡り廊下わたっていかなければならないとか南庁舎でしたらまた外に出ていかなければならないと考えますと、ワンフロアとか一つの庁舎の中でそういう業務を全部するとなればやはり人の動きも少ないでしょうし、当然職員を少なくしてでも業務ができるというメリットがあると思うんです。ですから現地建替えの工事中は残しておいても、今の西庁舎と南庁舎の分を全部中に入れて建ててしまつて全部つぶしてしまう。でつぶした後の広いスペースをまた使うと。南庁舎と西庁舎の改修工事で約8億円。どう考えてもつぶしてしまつて本庁舎の方に入れてしまう方が8億円も使うのであればその方が安いと思うのです。8億というのが本当かどうかにしてもね。敷地が狭いもんでこっちも残っている、こっちも残っているということではなく、建ててしまつて一つの庁舎に全部入れてしまつと。それで当然人間の動きもそれで職員の動きもスムーズにできますし、当然市民の動きもスムーズに行く。大きな考えからすれば、私はその今言う平米数では4, 200㎡ということになっているのですが、改修費を掛けるのであつたら一つの庁舎の中に入れてしまつてもっとスムーズな動きができるようにすればどうかという一つの提案なんですけど。</p> <p>事務局 B委員が仰いますように、7億～8億円かけてこの庁舎を残すということは投資的に問題があるということも事務局の方では検討もしました。南庁舎の使い方につきましては、例えば工事期間中の仮設の庁舎という使い方もありますが、建ててしまつた後どうするかということで、一番大きな考え方の骨子になりますのは、市として人口を如何に減らさないようにという中で市として施策を進めるなかで、やはりそうあつても最終的な何十年先の人口フレームについては7万人程度に落ち込むということが推測されています。そういうことになると、職員数も非常に減ってくる。ということは、庁舎面積も過大になる可能性もある。西庁舎、南庁舎には残存期間があります。西庁舎は重量鉄骨造ですので耐用年数も30年、35年という数字があります。そういったなかで延命してストックを使うという考え方もありますが、職員数が減つたその時に建物全てをつぶしてもう建てないという、そういった選択もありますので、現時点の計画の中では、この計画書の中にはそういう7万人とかになつて職員数 が何人になつて何平米削減になりますとまでは触れておりませんが、そういった観点でも検討しておりまして、建てる時には西の分南の分も含めてという考え方に今しております。</p> <p>それと計画の中で考えております動線とか渡り廊下とかの考え方ですが、8ページにもお示ししておりますが、西庁舎とは道も渡っておりませんので繋</p> |
|--|---|

| | |
|-----|---|
| | <p>いで一体利用していくと。そういった中で、市民の皆様は新庁舎の中で全て賄えるような職場配置にしていきます。それと南庁舎につきましては、市民と関連のない部署も役所にはあります。例えば業者さんだけの入札とか監査公平委員会とか、そういった市民に密着のないような事務部門をこちらに入ってもらって、市民の方には迷惑を掛けないような形で繋いでいくということです。7億円もかけて直すのかという金額につきましては当然我々も高い金額になっていると認識しておりますので、今後基本設計、実施設計に向けてはこういう金額をもっと抑える。それからB委員仰いましたような活用、つぶして、というようなことも当然この建物がどれだけでもつのかということを詳細に調査して算出したものでもありませんので、最悪のことも考えて例えばタイルを全面はがしますよとか、一番お金がかかるという経費で算出しております。そういったことはもっと精査していくべきものであると考えております。ただ基本的にはこれをつぶして床面積の大きなものを建てるということは、将来人口減ということも考えますと、その時につぶせばよい建物になるのかなという考え方もありまして、現在こういう考え方になっております。</p> |
| B委員 | <p>残していてもそれだけの電気代等のランニングコストがいるわけですから。それが実際に長い期間トータルしてどうなるというのは計算上出ないとしても、残すなら残すでそれだけ修繕費もかかってくるだろうし、そういうことも考えればなんかちょっとひっかかるんですけどね。</p> |
| 事務局 | <p>非日常的に使う防災倉庫などがあります。そういったものをこういう庁舎に放り込んで本庁舎以外のところで活用するとか、電気代とかもちろんございまして、そういったことも考えていきたいと思っております。</p> |
| B委員 | <p>わかりました。</p> |
| C委員 | <p>内容を見せて頂きましたが、これに対して誰も文句を言う人はいないかなと思うんですね。その次の段階の中で、どうしていくかという、いまB委員が仰いましたけど、4, 200㎡の積み残したものを将来的に全くいらないで解体ということで済んでしまえば別なんですけど、全体計画の中で、いずれそれらの建物が寿命が来た時に過渡的にどういう風にしていくかというかたちでの、20年～30年先の配置計画の中で考えていかないと。検討の上のなかでこういう使い方、というのはきっちりしていかないと。ただ容積が増えるよりは外しましたよといったら全体計画で工事費が少なく済むわけですね。今ぱっとはじいても改修計画で8億円、新築だったら多分15億円ぐらいかかってしまうと思うんですけどね。それが一つ。</p> |

もうひとつは、やはり市民と一体となった庁舎づくりを目指す、ものすごく良いことなんですけども、ここに挙がっている「競争入札」「コンペ」「プロポーザル」という3つの案が出てるんですが、本当のこと言ったらコンペでも指名なのか公募型なのか。市民が説明会に足を運ばなかったのは、興味が無いから、周知が徹底していなかったから、いろんな理由があると思うんですけど、考えてみれば、興味を引くセンセーショナルな話題であれば、放っておいても人が出掛けてくると。それは何かと言ったら、今全国の自治体で少しずつ行われているのが公開コンペというものなんです。多分高砂市でも募集すれば100～120人くらいの応募は完全に来ます。そういったものを公開してパネルで展示していけば市民も興味を示すと。そこから物事が始まっていくのではないのかなと思います。

それで、後世に負担の残らないという、これは金銭的に例えば60億円でできました、これが100億円かかった時に市民一人あたり各年度ごとにどのくらいの負担になるのか。一軒の家で考えたときに分かりやすいですね。2,000万円で家を建てたと。それが3,000万円かかった時にローンがどういう風に組めばいいのかと、そういったところが見えてきたら、「月々5,000円アップするのか」とか、ある程度のバロメーターが示されれば、より市民も分かりやすいのかと。そうなったらただ単に現地建替えが良いよと言われていたけれども、そういうことなのか、ということが見やすくなっていくのかなと思います。

それと、ガラス張りにするという面ではそういう中で、新国立競技場のようにですね、あれは何が問題だったかと言うと、最後の段階で評価基準のファクターがマスコミやテレビ番組なんかでクイズやっていって最後が一つ正解したら100点あげるよと、今まで5点10点と、ちまちまいていてそれらは一体なんだったのかという、その評価基準の軸足というのがぶれていたら、国立ではないですけどもやはり市民の象徴ですね、高砂市のシンボリックな建物という中では、レガシーというような建築は文化ですよというようなそういった中で、どういう文化を発信していくのかという、ただ工期だけ、お金だけというのではなく、最初から評価基準を、どういう風に評価するのかということもきっちり決めておかないといけないだろうし、それによって全然違うものになってしまう。

それと今は動線計画とか庁舎配置もいろいろと考えられてますけど、本当にこれがベターなのかということ。多分公募型でやった時に、場合によっては職員専用駐車場なんかも含めてもっと違った案、違うから良いのではなくいろんな意見が出てくれば、それと比較していけるということのメリットがあるわけですね。そうしたら市民も、これはこうなんだな、これはこうなんだなとわかって、やっとな市民が自分たちも参加して物が言えるとか分かるのかという人もいると思う。ペーパーだけで説明会をして、意見を言っ

| | |
|------------|--|
| <p>事務局</p> | <p>いと言っても、多分私たちがギャラリーとか市民コンサートができるようなものとか言っても具体的なちよっとしたものしか出てこない。そうではなく、もっと本当にこんな使い方があるのかとか、もっと極端なことを言えば、今は人が減っていますからあれですけれども、例えば庁舎と複合ビル、コンプレックスにして、上を、住宅は良くないでしょうけども、分譲するとか、案外費用もただ単にPFIではなくその根源のPPP方式という中でバリューマネジメントとかそういうところはもっと本当に本腰入れて、別の意味のコンサルを入れていけば、お金の捻出の仕方も含めてアイデアが出てくると思うんですけど。今PFI方式がいいよねとか、配置計画はだいたいこれだねとか、これとこれとこれは置いておいて、それは引っ越しとか解体した時にいろいろ使えるよねとか言ったような、本当に近未来的な簡単に予知できるようなところの話だけで行っているような、そうではないとは思いますが、気がします。ですからもう少し深いところ、将来のそういったものをいろんな視点から考察していくとこれから同じここで建替えるにしてもその視点というのは大事なのではないかなと。透明性と多種多様な意見の聴取。それをみんながどう評価するかといったなかでやると市民と一体となった庁舎づくりができるのではないかなとそういう風に思います。</p> <p>それからコンクリートは決して耐久性があるから良いものではなく、これからの建物は寿命を迎えたときにどう解体ができていくかということを考えていく方がよっぽどエコというのでしょうか、評価は高いと思いますけども。以上です。</p> <p>非常に技術的なことを沢山ご意見頂きありがとうございます。今仰いましたように、例えば事業手法については短時間ではありましたがPPPから始まって、VFM出るのか出ないのかということも検討しました。他市がやっております上層部狭小建替えというようなことも勘案しましたが、やはり成功例に導けるだけのバックボーンが無いということで、今のところは都市部でもない中でそういったことができるのかな、ということで今ちょっと断念せざるを得ないかなという考え方です。ただ、時間軸にしますと今仰いましたようなことについては検討していく時間もございますので、いま仰いました意見については十分事務局としても考えていきたいなと思っております。最初の方に出ました公開コンペにつきましても、現在文章的にはプロポーザルが望ましいという一方的な書き方をしていますが、他市の状況も含めまして調査もしております。それと、各方面の実績とか近くでしたら県内にも最近2～4市建てているところもございますので、市民に開いて透明性のあるような設計方針にしなければいけないということは考えております。もちろん 公開コンペなどの考え方も含めて。ただちょっとまとめの中の概要のなかでは断定的な表現になっておりますけれども。まだまだ時間がかかって参りますので、この皆様の委員の中で頂いて、また議会という大きな会、</p> |
|------------|--|

| | |
|-----|--|
| | <p>そういったことも含めて検討して参ります。ちなみにパブリックコメントにつきましては、2月23日から頂きながら、この議会用のこれ（基本構想（素案）【概要版】）が載りますので、意見がまた出てくると思います。技術的なご意見ありがとうございます。検討していきます。</p> |
| A委員 | <p>11ページですけども、財源のことはよくわからないんですけども、「(2)財源計画」で「庁舎建設費は、一般的に国や県の補助金がないため」と書いてありますね。こういうのは国や県から補助があるものかと思っていたんですけども、こういうものは無いものなんですか。もう一つ「一般財源が必要となります」と。ということは、庁舎建替えの費用というのは全てそういうような財源から引き出すわけですか。</p> |
| 事務局 | <p>市長が市民説明会の中でもお話しされたように、基本的には自前で建てなければいけないということです。市民の皆様は市長の方から口で説明した中では25%役所が現金で貯め、残り75%借金で建てる。それを償還していきます、何十年かけて、ということをして市長は市民の皆さんに説明しました。そこで、60億円とか100億円とかいう金額になりますと、このような金額が後世、皆様に何十年間税金の中からそれを払っていかねばならないということをお説明させて頂きました。ここにはそういう流れで説明していませんけれども、基本的には補助金は入らない。25%市が現金貯めて、75%を借金して建てるという考え方です。ただ、書いていますのは、特別にこういう場合は補助金出しますよというメニューがエネルギーとか防災、耐震とかで少しは補助金は出ますけども、それは合計しましても何億円という、微々たるもので、ほとんどが市長が説明しましたように25%は基金とかそういうところで貯金をして貯めていくという、設計している間に貯めていくという。今も貯めております。で、残り75%は皆様の税負担ですよということでございます。</p> |
| B委員 | <p>もうちょっと説明を。なんで高砂市は補助金が無いのかと。よそにこの間も行ってきましたけれども、良い建物が建っています。聞きますとそここの補助金が下りて建っていますと。高砂市は補助金がないと、ずっと前から聞くのですが、やはり当然税収の問題から絡んでくると思うんですが。</p> |
| 副市長 | <p>税収という問題ではなく、おそらく見に行かれた建物というのが、今補助金が無いというのはこういった市の庁舎であるとか、この間例えば去年高砂朝日町の消防の分署を新しく建てましたけれど、ああいった庁舎関係は基本的にはそれぞれの自治体が自前でやるものだという考え方のなかで、補助金制度というのがありません。ただ、どんな施設を見られたかわかりませんけれ</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>ど、いろんな建物を建てるにあたって、全て補助金がないというわけではなく、こういった庁舎とかそういったものについては国の補助制度がないということです。</p> |
| B委員 | <p>例えば市民ホールとかですね、大きな建物が奥に入っても、こんなところにこんな建物が建っているのかなと思うようなところに建っていますね。恐らくは市だけで建てたというお金のものではないと思うんです。聞きますとそういった補助金で建てたと聞くんですけど。</p> |
| 副市長 | <p>山とかそういったところに行ったときにそういった立派な施設が目立つと。そういったものも例えば農林関係の補助金があるとか、いろんな補助金があるにはあるんですけど、ただこういった市の庁舎、そういったものについては高砂市だからということではなく国庫補助金は基本的にはないということなんです。</p> |
| 事務局 | <p>西庁舎などでは防災の補助金が入っております。ものによってはそういったものをどんどん活用して使っていきたいという風に考えております。</p> |
| A委員 | <p>先程に追加してですけれども、市から他の、例えば呉市役所とか、富山県の氷見市とか、射水市とか、そういうところを視察に行かれていますね。その辺の話を聞かせて欲しいんですけど。</p> |
| 事務局 | <p>氷見市と射水市については、議会の議員さんが行かれるということで、私も一緒について行かせて頂きました。特に特徴的なのは氷見市でございまして、ちょうど廃校になった高等学校がございまして、その体育館がしかも2つ並んで建っていると、非常に珍しい条件がある。なぜかと言いますとあの辺りは豪雪地帯で運動場が使いにくいということで、片一方が屋内運動場のようなかたちで使っている体育館であると。そういうかたちで良く似た体育館が並んでいたの、それをリフォームというか、リノベーションというのでしょうか、そういう再生をして庁舎に建替えていたということで全国的にも珍しいので、非常に話題になっておりまして各地から視察に見えられているんですけども、そういう整った条件で2つ体育館があつて、しかも廃校になって利活用ができるというような条件がなかなか無いのかなというところではございました。ああいう条件が整って初めて、しかも利活用しようという創意工夫というか、そういう2つが重なってやっと実現できた部分かなという風に思っております。射水市の方は、まだ実際には庁舎は新しくなっておりません、何町かが合併してできた市でありまして、たまたま中央あたりに公園があり、そこを使うとかいうお話を伺ったんですけど、まだ実現</p> |

| | |
|-----|---|
| | の段階には確か至っていなかったと思います。簡単ですが以上でございます。 |
| C委員 | 氷見は、まちづくりの地域リーダーが頑張っていて、私もシンポジウムをやったことがあるんですけどね。そういったような若い人のパワーの中で。ですから全然行政的な考え方でなく本当に積み上げていった目線ですから、運営自身も面白く参考になるかと思います。 |
| 事務局 | ですから体育館ですから、どんと見渡せるようなところと、余り広いと空調が効きにくいので幕を垂らして空間を狭めて空調を効きやすくするというような、いろんなアイデアが使われていたというように記憶しております。 |
| D委員 | アンケートの結果ですが、世代的にどういう年代層でどういう幅でお聞きになられたのでしょうか。 |
| 事務局 | この委員会で行ったものということですか。 |
| D委員 | どれでもいいんですけど、631人と先程仰って、若い世代の声ってどれぐらい反映されているのかなあと。 |
| 事務局 | 市民アンケートを実施させて頂いたときは、抽出というかたちで、各年代均等にはしていました。 |
| 事務局 | 検討委員会で行いましたアンケートというのは、70歳以上が22%、60代が25%、50代が19%、40代が14%、30代が11%、20代が7%、20代以下が残り2%ということになっております。無作為抽出として送っております。その合計が530件ということで、こちらで取らせて頂きましたアンケートの結果でございます。 |
| D委員 | その、借金って言ったらあれなんですけど、借金の建てた後の返済は大体何年で解消するんですか。 |
| 事務局 | 大体20～30年となると思います。 |
| D委員 | 例えば生産労働人口とって、いわゆる税収になる人の意見って少ないですよ。 |
| 事務局 | そういう意味では実際の起債をして借金を返して行く時に、税を納めていく |

| | |
|-----|--|
| D委員 | <p>方の意見はこういうかたちになれば少ないのかなと。</p> <p>少ないのかなと。何が言いたいかというと、一番市で考えてもらいたいのは無関心ということ。皆さんが無関心ということがすごく問題で、庁舎内のアンケートにおかれましても、庁舎内であっても無関心っていうような、アンケートが集まらないということも以前聞いたりしているので。移転どうこうももちろんあるんですけど、無関心ということがどれだけ大きな問題なのかということに対してを、しっかりやっついていかないと、これが人口を本当に減らさない対策、まあ庁舎が建て直したからどうかっていうのもあるんですけど、この中には書かれていないんですけど、以前総合政策の、皆さん出ていらっしゃると思うんですけど、最後若い女性の方たちとかも意見おっしゃられて。移転か現地かっていったらそれだけじゃなくて、商業スペースやいろんなことを活用して庁舎を組み入れたりすると、コストも削減されるし、まちも活性化されるということで、そういう風なやり方もあるんじゃないですかと。例えばここは議会棟だけ残して、防災はもっとまちの中心、人口層があるようなところに、というようなことも、ここの中には書かれてないものですけど。それはそれ、あれはあれ、というような感じがするんですよ。だから基本的にはまちづくり、まちっていうものを本当に考えられてこれを皆さん、どういう方向性をもってされているのかっていう。書かれていることは確かに間違いないことは。ただそれは書いているだけで、なんかそれが本当に、だからどうするの、っていう具体性もないし、一体となった庁舎づくりって言っても抽象的で、じゃあ何なの、っていうのが見えてこないのかなと。その辺を庁舎内の皆さんで共有されて皆さん誰に聞いても同じ意見なんでしょうかね。そのの、市民どうこうもあるんですけど、まず庁舎を決めるにあたって、市役所全体が一体感をもたれて同じ方向に向かってされているのでしょうか。</p> |
| 副市長 | <p>こういった計画については市職員、例えばそれぞれ部長会、室長会、課長会いろいろあります。そういった中でもこういった素案を説明し、職員からの意見もいろいろ聞いています。その中でもっと若手職員にまで届いているのかというのはちょっとあるかなというのはありますけど、職員からも一定の理解を頂いているとは考えてはいます。</p> |
| D委員 | <p>私もこの場じゃないかもしれないですけど、決めるのはできるだけ若い方たちの意見を聞いて、サポートしていくという方達で覚悟を決めさせるのかな。後始末を自分たちがやっついていくんだという意識にさせないと。私たちは過去の遺産をお金払っているんだというような考えになるとまちは閉鎖的になるし無関心になるし、人数も増えてこないのかなと。</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>1点、まちづくりに結びつくかという考え方もひとつございます。ただもう1つ庁舎の建替えがスタートしたのは何かと申しますと、耐震性の問題。私企画総務部長としては、職員の安全や健康管理とかを担当している中で、今の庁舎で仕事をし続けていくことが本当に職員の、当然来庁者の皆さんにとっても、良いのかというところからもスタートしたというところもございませう。やはり災害とかでリスクを考えると、災害の発生する確率とか頻度と、どんな影響、どんな被害が出るのか、それを掛け合わせて大体リスクを判定して優先順位を決めていくと思うんですね。特に震災とかいうのは例えば震災というのは南海トラフ地震は30年で70%の確率と、確かそういうような数字が出ていたと思うんですけど、そういうふうなことも出ている中で、今耐震性がI s値が0.3を切っているという状態がやはり行政庁から指摘されている中で、それを放置するのが非常に問題があるのかなと考えながらも、それにプラスして確かにまちづくりに役立って、人口増ということに繋がる、いろんな効果もたらされれば一番良いですけども、やはり人的な被害が出たときに、取り返しのつかないことになるということも私の方としては考えていかなければならないことです。だからといって、他の要素を排除するのではなくて、できるだけそういうこともプラスアルファとして入れていければベストかとも思いますが、そういうところも大きな問題であるところもご理解頂ければと思います。</p> |
| D委員 | <p>全然そういうのもわかるんですけど、言い訳にしかないというか。何年前かに庁舎を建替えましようって話が出てから何年も放置していて、それがただ単に地震がこうだからというきっかけがあったからついでにこうしようというふうになるんじゃないですか、という風に、市民の方もそういうふうだね。地震があるからやむを得ずになんだ、と。やっぱりそうなんでしょう、そういうことだけなんですよ、結局は市からの歩み寄りがいいよねって。そこに溝じゃないですけど大きな市側と市民側のそういったものがあるのかなと。きっかけが地震対策、それが言い訳でしかないんじゃないんですか、って仰る方もやっぱりいらっしゃるんで。だから折角、最近ちょっとやっぱり皆さん意識しているように、周りもいろんなことが起こり始めているので、意識し始めているので、もし、そりゃ明日地震が来るかもしれないし、来ないかもしれないけれど、もう少しまちの活性化というところをもう少しされてから決められた方が、後々皆さんも協力してもらえるのかなと。私は思ったのですけれども。</p> |
| 事務局 | <p>先程、企画総務部長が言いました。私はまちづくり全般の担当、それと地震対策もしております。その中でしつこく言い訳に聞こえるかもしれませんが、そもそも役所というところは市民の皆さんの、例えば建築に対しても地震で崩壊するようなものに対しては直してください、直しましょうね、行政としてはこういう援助もしますよ、という立ち位置です。で、公共施設につ</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>きましては、皆さんご存知のように高砂市内の小中学校においては耐震性能を上げる耐震補強工事というのをやりました。今、企画総務部長が言いましたように、まず求められるものは、この役所の耐震性を向上させなければならぬというのが一番にあります。それで、その手法として、皆様に聞きました。庁内でも協議して、結論的には本日冒頭に言いましたように、耐震補強はしないで建替えていくという、それも早期に建替える必要があるというような意見であります。次に、まちづくりという観点から申し上げますと、市長が説明会でも申し上げていましたように、例えば明姫南とか、米田とか、高砂とか行きますと新しいまちづくりにつながる可能性が非常に大きなものがあります。見えないものですね。庁舎は動き、庁舎の周囲に関連する新しいまちができるようになる、というようなことを、非常に庁内でも論議しましたし、市民の皆様にも意見を求めました。そういった中ですが、取り出して言いますと、明姫幹線南については新しいまちづくりができる可能性が担保できない、調整区域である、という制限のなかで、非常に時間をかけて、例えば調整区域の活用計画とか、そういったものを全て皆様とコンセンサスを取りながら作り上げて、その中の一環として市役所を持っていくのだというような、事業計画が進められるならば、それはそれで非常に有意義な事だと思っています。ただそのためには非常に長い時間軸が必要になって参りますので、耐震性能を上げて職員も訪れる市民の皆様の安全性を確保するためにということで、前半戦、昨年度1年かけまして皆様に建替える必要があるんだろうねということをご頂戴しました。加えて、そういったことも併せて考えますと、余りにも時間軸が延びちゃうんですね。そこまで待てるのかというと、今仰いましたように明日来るかもしれません。そういった地震に対応できるのかということが一番大きな問題で、10年経っても来なかったらお前責任取れるのか、ということも市民説明会で私は言われました。それは取れませんと言いました。そういったこととか、いろんなことを聞きながら判断して今日に至っているということです。だからコンセンサスの取り方というものにはいろいろ考え方がありますが、明確にお金、借金がこれだけよ、というようなことも説明会でもしていましたが、ここに至った経過も説明してきたんですけど、そういった中で、今の私の説明についても言い訳にしか聞こえないかもしれませんが、まずは命を守ると耐震という、そこからスタートしておるのは事実ですので、それを延ばして延ばしてという考えには至っていないのが事務局の考え方です。といったことをご理解頂けたら。</p> |
| D委員 | <p>そこを逆に言ったら私たちの委員も市民とのつなぎという意味合いでお互いの意見の折り合いをつけるという役割もあるのかなと思いつつ意見を、受けた感覚をそのままお伝えするしかないんですけどね。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございます。</p> |
| D委員 | <p>そうしたなかで、市役所のあり方そのものについても同時進行でもう少し、動いているよ、というのを。多分発信力がまだちょっと弱いというのかな、と思います。</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | 弱いです。 |
| 事務局 | 発信力の観点から言うと、非常にあちこちからのご指摘を頂いています。折角いろいろやっているのに何でもうちちょっとPRしないの、というような声は本当にあちこちから頂いております。企画総務部で広報広聴とかいう担当も持っておりますので、今、広報戦略というものも策定して、これからどういう風にやっていくかについても鋭意やっていきたいと思っておりますので、ご期待を頂きたいと思っております。 |
| 副市長 | 借金の話、借金の返済とかそういう話が出ましたが、今回例えばこの事業費が60億円とすれば、借金が75%で、基金なり市が持っているお金が4分の1で25%です。ということで、借金については20年余りかけて返済していくと。それには当然利息もつきます。ということで仮に60億の75%で45億を仮に15年で返済するとしたら、利息なしでも毎年3億円ずつ返済するわけですね。ただこれはこの庁舎に限らずほとんどの建設事業についてはその財源は、庁舎は先程から言っていますように国の補助金、県の補助金はありません。いろんな道路を作るとか、浸水対策の事業をするとかそういうものについては国の補助金、県の補助金がありますので、補助金、それとその補助金を除いた75%が起債借金、それから残る分がその年の税金で補充すると。だからこの書いたものは、今回の庁舎と同じように15年～20年かけて分割して払っていくという、殆どの建設事業はそういうことになりますので、今確か一般会計でそういった起債残高というか借金の残高が300億円余りあったと思うんですね。だからそういったものは年間トータルで言えば30億円ずつぐらい返済していっているということで、順繰りみたいなことにはなるんですけどね。ただ、大きな事業をやれば、当然年間の返済額は増えていくということになると。そういうような仕組みというか、財源構成になっております。 |
| D委員 | 庁舎だけでなく、高齢者の医療とか色々な問題も出て、それだけが付加されるわけじゃないので、なおさら若い世代の正社員というのもやはりなかなか難しい状況で、所得も下がってきている状況で税負担ばかりが増えていくようなかたちで、はっきり言って多分若い世代の人たちは子どもは産まなくてはならない、税金は上がるはといったら本当にしんどいのかなというものもあるので。 |
| 事務局 | 起債というのも、一つは世代間の負担の公平性を生み出すというか、例えば今、全部今の税金でやったら今の世代の人だけが負担をすることになる。じゃあ庁舎はもっと長いこと使っていくんだということであれば後世の人にも一定の負担をして頂くという意味での負担の平準化というものもひとつはあるんですけどね。ただその時後世の時に余りツケを一杯残してはいけないというのがまとめの最後のところに、そういう考え方が大事ですよと書かせては頂いているところです。 |

| | |
|-----|--|
| C委員 | <p>話の続き的な感じですけど5ページに「高砂の魅力が感じられる庁舎」とありますね。その中で地域ブランド化を推進すると。私、もっと大事なのが、市役所のブランディングだと思うんです。ブランディングって何かと言ったら、新しくお客さんを沢山つかむのではなく、リピーター。結局ファンを一杯つけるということですね。ではブランディングをどうしていけばいいかと言ったらやっぱり経済の活性化とか、まちの魅力を発信していかないと、魅力がないんですね。その中でね、ちょっと意見ですけども、同じくですね、子育て支援という、「3 市民に開かれた庁舎」は、「子育て支援」と書いていますけど、僕はこういうところは子育て支援というのではない、こどもの遊び場とかそういったスペースをつくる、(1) のとこの「ユニバーサルデザイン」とかですね、ノーマライゼーションの中できちりくくられている話であってですね、本当の子育て支援というのはこのまちに住んで、住み続けて、家を建ててとか、子を育てていくという魅力というのですかね、そういった子どもを産んで育てようというような気持ちにさせるというのが子育て支援であってその応援をします。ただ遊び場とかですね、安全に対して配慮する、それは当たり前のことであって、バリアフリーとかノーマライゼーションという話ですんで、ブライダル都市のステップとなる子育て支援というのがですね、どうもこう書いたらものすごく軽いものに意味がなくなってしまっているのかなという気がしますね。やっぱり高砂のブランディング、魅力あるまちをどうつくっていくか、折角の機会で庁舎建設というものにひっかけていくことができれば、もっと高砂がみんなわくわくするような夢のあるまち、今経済が衰退して政治とか紛争とか真っ暗でとか言うのではなく、足元を照らして行ってですね、その辺のところからも魅力というのですか、折角の機会だからそれも併せ持って考えていきましょうよという、行ってくださいではなく皆で行きましょうという機運を作るのも大事かなと思うのですが。</p> |
| 事務局 | <p>例えば新しくできました図書館などでは外観については竜山石のイメージを取り入れたり、あと入ったロビーのところでは松右衛門さんの作った帆を張って、そういう高砂のイメージを強調するようなデザインをさせて頂いております。先程も申し上げましたけれども、広報でもシティプロモーションか、市を売り出していくというか、一杯リピーターを増やすためにそういう活動をしていこうとしておりますので、そういうことも併せてやはり取り組んでいきたいと考えております。</p> |
| 事務局 | <p>先程子育て支援スペースのことにに関して、C委員からお話がありまして、この遊び場を提供するということはユニバーサルデザインとノーマライゼーション、そちらに該当するのではないかということでしたけれども、こちらのユニバーサルデザインの「子どもからお年寄りまで利用しやすい施設計画」といたしまして授乳室、おむつ替えのコーナーやキッズスペース、こちらは窓口を利用される方が少しの間子供さんを預けて遊ばせておける簡単なスペースということを想定して盛り込んであります。市民に開かれた方の交流の観点から子育て支援機能ということで、あるんですけども、平成27</p> |

| | |
|------------|--|
| | <p>年度にたかさご未来総合戦略を策定致しましてそのなかで主要な基本の目標4項目のうち結婚・出産・子育ての希望を叶える環境をつくってまいることやうたっておりますが、こちらの基本目標を軸にこういった子育て世代の方が集えるような交流して頂けるような環境をこちらで整備させて頂けないかなと考えてこちら盛り込んでおりますので、ちょっとその、ユニバーサルとその交流の場というのは雰囲気の違いのものであるということをご理解頂きたいなと思います。</p> |
| <p>C委員</p> | <p>広義、狭義はありますけどね、こういうところは私共が感じたところですけど、また長くなりますが、公園の概念がですね、どういうものが公園かと言いますと、昔の公園は滑り台と鉄棒とかいろいろ作って置いてある公園だと。街中全部ネットフェンスで囲われて、今度は危ないからと遊具を撤廃していくと。時代と共に概念がどんどん変わっていくそういう中でどういう風なものが一番良いのかというものはどんどん考えていけないんですけども。もちろんこういったようなスペースは要りますけど、はい。</p> |
| <p>A委員</p> | <p>私、最初にまず地域説明会のことをお聞きしました。その時に市からのお答えは現地建替えか他のところへの建替えかの人数がどれだけ、という返事が返ってきました。それから財源計画のこと。一応まあ質問しました。それで、三番目に視察で富山県氷見市、あるいは射水市、それからこれは市議会の方だけかもしれないですけど、呉市役所とか行かれていますね。そこで説明があったのは、学校を何々、という答えが一応返ってきました。例えばそういうところを見に行くと、どれくらいのお金がかかってどのようなやり方で、という答えを期待していたのです、はっきり言って。ところがそういう答えが全然なかったわけです。で、例えば、また元に戻りますけれども、財源計画の中で市役所に対しては補助金がないということで財源は市民の方の負担になると。そうすると若い世代は非常に負担が多くなるし、これから我々のほうが先に死にますから。というようなことがあります。で、僕が思うんですけども、例えば呉市役所であるとか、あるいは他の市役所を視察に行くと、例えば高砂市の面積でいったら34k㎡ぐらいですね。非常に小さな面積ですね。で、人口は今9万1千ですね。で、射水市なんかは9万1千、人口は確か一緒くらいのはずなんです。で、ただ、面積は109k㎡くらいありますかね。で、氷見市は高砂市の半分くらいの4万7千人くらいだと思うんです。ただ、面積が非常に広いと。で、呉市は、立派な9階の市役所を建てていますね。近隣では赤穂市役所ですかね、建替えて、いろいろ新聞に載っていますけれども。私が言いたいのは、人口が9万1千で、平成32年で推定9万1千となっていますね。で、職員数が506人、議員数、これはどちらでもいいですが。この9万1千が先程のまちづくり云々の話もありましたけれども、例えばそれが7万人くらいに減った場合ですね、減るか増えるかわかりませんが、多分増えるのは非常に難しいかと思えます。いろんなことを見ましてね。そしたらこの60億円の庁舎の費用が例えば50億円でできれば、その規模くらいに縮小してつくれば、10億円の金が浮けばものすごく、単位が違いますから、桁が違いますから、それだけ市民に還元できるわけですね。ですからその辺を含めて本当に60億円の庁舎を建てなくてはいけないのか、ということなのです。それはまあ僕がちょっと今疑問に思っていることなんですけども。</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>単価につきましては、単価、床面積、庁内の担当職員も、仰いますように何十箇所という庁舎を見てきております。それで実際にそういったものでかかった経費とかも調査をしてきて、施工単価というものも算出し、他市の、事務局が入っておりますのでそういうのを調査したうえで、それとまた関東におけるオリンピックによる単価高騰とかも配慮しながら単価を決めております。設計においては基本的に、昨年から続いておりますように、そんな華美で豪華なものまでは考えておりません。単価的にはですね。で、人口の考え方につきましては、冒頭B委員の方からもご質問がありましたように、人口フレームが7万人ぐらいままで下がった時には当然職員数も減る可能性もある、床面積も減る可能性もある、という中で、先に来るような南庁舎西庁舎をつぶしていくことによって削減できるということもコストダウンに入るということは一度ご説明させて頂いたと思います。ですので、床面積を置いて10億円下げるとということは、現状においてしにくい状況です。余裕を見て置いている数字ではなく、実現可能なぎりぎりの線で数字を置いていますので、10億円下げる手法というのは、コストダウンを目指していく中ではありますが、60億円の建設費の内訳のなかで10億円下げるというのは困難であります。</p> |
| E委員 | <p>今までいろんな委員さんの意見を聞かせて頂いた中で、やはり若い人の市民参加が少ないと。それはどこの市でも同じだと思うんです。選挙をしてもやはり高齢者の方が選挙に行く率が高い。若年層になるほど、今度市長選もありますけども、若い人の投票率が低いと。それは何かと言ったら若い人に向けた施策がないと。もちろん議員さんであったり市長さんも含めて高齢化しているというのはあるんですけども、若い人が声を出す場所というのを作ってあげないといけない。そういう場所に例えば中には市民ギャラリーがあったり、市役所の中に若い人が声を出す場をつくってあげるというのは必要なことだと思います。実際どんな庁舎ができるんですかというのを、まず例えば絵に描いた餅のようなものでいいですから、若い人に例えばここにコンビニもスーパーも入りますみたいなイメージというのをつくってあげたらどうなんじゃないかなと思います。そうした方がわかりやすいと思うんです。実際60億円かかるという費用はありますけど、60億円かけてどんな庁舎ができるんですか、1階にコンビニが入ります、2階から執務室が入りますというのを絵としてわかりやすいものをつくってあげたらいいんじゃないかなと僕は思います。</p> |
| 委員長 | <p>私の方で言いましょう。今日意見を伺っていて、やはり市民の関心が低いことをどう高めるかという話、それから実際に市民の意見を反映したかたちで出来上がっていった欲しいという希望が多く出されていると思います。で、今の段階でその点を考慮するのであれば例えば設計者の選定であったり設計案の選定の時に、例えば市民審査員というのをしっかり選定していくようなかたちで公開型ですね、そういう設計案をつくっていくんだと、要するに参加の中で作っていくような方式を考慮するというようなかたちで、いわゆる皆さんの出されているような意見の反映ができるような方式を目指すとかですね、その辺りの表現を少し加えるといったようなことで、ここで出されたような意見を反映させたらどうかなという風に思いました。普通はこ</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>ういう設計者選定等については学識者であるとか専門家の審査員で構成されるというようなことももちろんありますけども、公開するというかたちで市民の目の前で審査が行われるというかたちも大切ですし、実際に60周年のマークを決める時もみんな意見を聞きながら皆さんと表されたというような経緯もありましたし、高砂というのはそういう意識もあるんだなという風なことも思っていますので、例えば実際にある程度案が絞られた段階で皆さんの意見を聞くというようなプロセスをしっかりと取るんだというような方針を持つことで皆さんの関心を高めつつ、意見の反映をしたかたちで案が決まっていくというようなことにしていっていただくと皆さんとの意見を聞いて考えた次第です。ちょっと無理を言いすぎですかね。</p> |
| B委員 | <p>もう一つお聞きしたいんですけど、前も少し話出たと思うんですが、県の広域の地区の、例えばこの辺でしたら姫路を中心とした大きなまちづくりとかいろいろ構想がありますね。それで、これを建てたがこんな大きなものいかなかったな、ということはないんですよね。それがいつ頃に施行されるのか。</p> |
| 事務局 | <p>広域連携と合併とは意味合いが違いまして、地方自治体として残って広域連携を図ったとて自治体としての庁舎は残していかなければならない。合併は別ですが。</p> |
| B委員 | <p>残しますけど、広域でそこでできたらこんな大きなものは要らなかったなということはないんですね。</p> |
| 事務局 | <p>今言われていますのはスポーツ施設を集約して考えていくとか、文化施設を広域連携の中で図りましょう、病院もそうです。ただ、庁舎というのは今言いました合併ではないので、連携を図ったとて独立して存在していなければならないんです。</p> |
| B委員 | <p>この前も波賀町に行ったら大きな木造のものすごく良い庁舎を建てて、宍粟市に合併しましたよね。そしたら本庁も山崎に行ってしまったんです。これは誰が使っているの、と言ったら、いや、会議場も全部空いてしまっていると。それで市民の使う広場として使っていますという話がちらっとあります。これは市の合併でなったことなんですけど、そういう大きな広域のことになってきますと、当然医療の話とかいろいろと出ていきますけど、市自体の庁舎については当然同じような業務はきますから市とは合併できませんからそれは要るわけですね。</p> |
| 事務局 | <p>はい。合併を見越して、というのなかなか書きにくいところもご理解頂きたいと思います。ただ、多面的な活用をする、可変性といったことには配慮した設計であるべきだのご意見は頂きましたので考えていく必要はあるかと思えます。</p> |
| F委員 | <p>今の関連で、この基本計画、配置計画の中でこの現地建替えてこの配置計画をされていますけど、私の方からの意見としましては議会については7階建</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>てのスペースを横に広げても良いかなと。このレイアウト上、本庁舎の中に議会をする場所を作った方が、コストダウンになるのではないかなと思っています。最近の新しいところは大体が庁舎の中に、議会棟を別に設けなくて議会をされていますね。それとこの西庁舎に対してもそうですけど、この動線が渡り廊下で行かせようとしてるのはどうかなと思うんですけど。だから議会棟を本庁舎の中に住まえば、当然先生方は別に欲しいんだろうと思いますけど、その辺をもう少しコンパクトに作られたらいいのではないかなと思います。</p> |
| 事務局 | <p>議会棟を独立させている理由としましては、議会を分庁舎としなければならないというところからスタートしているものではなく、この作業スケジュールの中で仮設を建てずに建てていく。例えば議会棟のところは現在駐車場になっております。この駐車場に議会棟を建てて、今の議会棟をつぶして新庁舎を建てるといように、仮設を作らなくても良いようなスケジュールとして提案しているので、例えば南庁舎の中に仮設の議会棟を作って一気に建てるというのも大いに有りですから、それは今後基本的な計画の中で。まあこの断面図をフロアゾーニングというのを8ページの中で示しておりますが、これで決まったわけではないという、これはあくまでイメージであり、西庁舎についても離れたところは出来るだけ市民の皆様が行く必要のないようなセクションを放り込んでいくというような考え方でっております。中で働く者は若干しんどいですがけれども。</p> |
| F委員 | <p>工程を圧縮して中でやりくりしようというのは分かるんですけども、将来にわたって形が残るわけですから。それを今きちっと考えておかないと。議会は年間365日のうち、じゃあどれだけ使いますか、という問題もあるし。市民から見たら議会の先生方がやはり居場所を確保したいとか、そういうことでは良くないと。</p> |
| 事務局 | <p>決してこれで決めて、この通り庁舎を分けて実施設計に移りますということではないので、イメージ的なものでございますので、それだけご理解頂きたいと思います。</p> |
| F委員 | <p>だから意見として言いました。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございました。</p> |
| 委員長 | <p>イメージ的なものであれば、そういう断り書きを入れた方が良いと思います。やはり実際の現実の敷地の地図の上で書いてしまうとかなり拘束的になるのも事実ですので、どういう経緯でこういう図になっているのかということだけは少しお断りはしといたほうが良いと思います。</p> |
| F委員 | <p>パブリックコメントはこれを見ますからね。</p> |
| 事務局 | <p>はい。</p> |

| | |
|------|--|
| 委員長 | 非常に熱心なご意見を出して頂きまして、本当にありがとうございました。本日の意見を踏まえまして、先程事務局のご対応もありましたし私の方も言わせて頂きましたが、そのようなことを踏まえて、この報告を皆さん聞いて頂いて了承するというところでよろしいでしょうか。 |
| 委員一同 | 同意。 |
| 委員長 | それでは（２）のその他に行きたいと思います。よろしくお願ひいたします。 |
| 事務局 | <p>議題 （２）その他</p> <p>パブリックコメント実施について事務局より説明</p> <p>それではお手元の資料２をご覧ください。先程の議題でもありましたように、今現在皆さんが見て頂いています、基本構想素案【概要版】の意見公募、パブリックコメントを２月２３日から３月２３日まで１か月行っております。それで、このパブリックコメントにつきましてはこの概要書をホームページや市役所、あるいは各市民サービスコーナー市民コーナーでも掲示させて頂きまして、意見に関しては２枚目についておりますけども、このように意見用紙という用紙にご意見を書いて頂いて、郵送・メール・直接持参等をして頂いて、ご意見を現在伺っているということもございますので、改めてご案内をさせて頂きたいと思います。以上です。</p> |
| 委員長 | 意見公募についてのご説明がありました。その他ございますか。 |
| 事務局 | お手元にこの委員会でまとめて頂いた提言書のコピーをお付けさせて頂いているんですけども、提言書については２６年１２月２４日に委員長の方からご提出頂いておりますが、市にある委員会が沢山あるんですけども、それぞれいろんな委員会がありまして、法的な性格をもつような委員会と、ただ単に意見を聞くというような委員会という二つの区分けがございます。法的に性格を持つ、条例で定めて委員会を置いて、その委員会においては市の方から諮問をして委員会で意見をまとめて頂いて、市の方に答申して頂くという、附属機関という名称で呼んでいるんですけど、そういう委員会でございます。もう一つはこの庁舎整備の検討委員会のように今回は基本構想の策定にあたって市民の意見を反映するために設定した委員会ということで、委員の方々から、市民の方々から意見を頂くという委員会、附属機関に類する機関という風に呼んでいるんですけど、そういう機関ということで、この委員会は発足しております。前に提言書を頂いたときに、委員会としてまとめて報告、というかたちを取っていたしましたので、この提言書の「はじめに」というところに前回そういう言葉を入れて提出して頂きました。その、まとめて、 |

| | |
|-----|---|
| | <p>というところが法律上ひっかかりますので、今回、内容については全く変わっておりませんが、「はじめに」というところで、「議論頂き、意見を頂き、この提言については我々はこの提言を踏まえて進めて行くということで期待します」ということで、まとめさせて頂くかたちに改めさせて頂きたいと。ここで作って頂いた提言なんですけど、そういうかたちにまとめて頂きたいということと、それから、意見なので、最後のページのところに委員の皆様の前に署名も頂きましたので、委員の方々のお名前もつけて、これは皆様の意見が反映されたものでございますので、そういうかたちで整えさせて頂きたいということで、ご了解を頂きたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>内容としてわかりにくいというか、役所の中でのルールというか、都合ということでございます。そういう法的なところをクリアするという意味で、連名でという格好にさせて頂いて、ということでご理解を賜りたいということです。</p> |
| D委員 | <p>これ（資料2意見公募について）、市役所の広報や、ホームページに載せているだけだと思うんですけど、例えば若い世代に聞いてもらうということで、学校関係者の方から、教育を通じてこういうのをやっていますというのを通知することはできないんですかね。なかなか皆さん広報を開いて見るという時間がないので、結構広報来てもぽんとそのまま捨ててしまう人もいますので。例えばこれをスマホでピッととして入れられるとか、そうすると若い世代の人は意見を入れやすいのかなと思うんですけど。幼稚園とか保育園とかも、高砂市に住んでいる人もいらっしゃると思うので、こんなのやっていますよと通知をもらったら、少なくとも学校の。</p> |
| 副市長 | <p>保護者の方とかそういうことですか。</p> |
| D委員 | <p>保護者の方とかは見ると思うので、出し方を違うやり方でちょっと。それとか、駅のところにこんなのやっています、みたいなを見ると、「高砂市こんなのをやっているんだ」とか見て、駅を待っている間にこうピッととして入れられるとかというのももしかしたらあるのかなと。私の今の思いつきなのであれなんですけど。</p> |
| 委員長 | <p>今回ののはホームページから見れるんですね。しかもメールでも返せるようになってますね。</p> |
| D委員 | <p>そこを開ける人が。開けないと入って来れないので、貼っていてバーコードをピッと読み取りとかして開いたら入れられるのかなとか。PTAとかだった</p> |

| | |
|-----|---|
| | らPTAのチラシだわ、って絶対目を通すので。 |
| A委員 | 結局ね、今の若い人で市のホームページを見る人はまずいません。僕らは時間的にはありますので、毎日でも見ていますけれど。だから、今後行政として、それだけではだめだと。もっと他の若い人にどうしたらわかってもらえるのかと。あるいはどのような方法で若い人が関心を持ってもらえるのか。ということのをこれからやはりやって欲しいのです。後ろに若い方いらっしゃいますでしょう。その方々に知恵を拝借すれば、そういうこともできるのではないかと僕は思うんですけど。例えば昨年地域の説明会をやっても若い人が一人もいませんでしたよね。はっきり言って60歳以上ばかりです。そんなことが云々のあれをしても、言ってみれば愚痴をこぼしているような意見も結構ありました。だからやっぱり主役は若い人ですから、それをやはりきっちりやって頂きたいと思います。やってできないことはないと思います。 |
| 副市長 | これに限らず何事でも今仰るようなご意見、そういったことをいろいろ頂く機会が一杯ございますので、我々もできるだけ若手職員にその感覚でそういった広報とか、そういったものの方法を考えてもらいたいというようなことは言っているんですけど。今言って頂いたようなご意見を参考にして頂いて、またそれこそ若手職員なりの発想で何か考えて頂けたらと思います。 |
| 委員長 | 世代によってメディアの使い方も違いますし。 よろしいでしょうか。そうしましたら本日の議題を以上で終わらせて頂きたいと思います。進行を事務局の方にお返ししたいと思います。 |
| 事務局 | 閉 会 それでは副市長の方からご挨拶を申し上げますので、よろしくお願いいたします。 |
| 副市長 | 本日は大変お忙しいところ、また午後7時からの会議ということで、もう9時を回ってしまいましたが、大変出にくいところをご出席頂きまして、終始熱心にご議論頂きまして貴重なご意見を頂きました。本当にありがとうございました。皆様方には平成26年の7月から、この第1回の会議からいつも熱心にご議論を頂いて、いろんなご意見を頂いております。皆さんからのご意見を参考にさせて頂いて今日ご説明・ご報告を致しました、この基本構想の素案というものの取り纏めをさせて頂きました。また、平成26年の12月に頂きましたこの提言書の中にも移転建替えによる周辺地域の活性化や公共施設の集合化など積極的な改善を提案する意見もあったと。そういった |

| | |
|-----------|--|
| <p>一同</p> | <p>中で最終的には現地建替えが現時点の選択肢として最も望ましいと考えた というようなまとめで、提言書を頂いております。最初に担当の方も申し上げ ましたように、2月の22日から開会されております3月議会のなかで市 長の方から施政方針としての中で、頂いた様々なご意見を踏まえ検討した結 果、現在の庁舎敷地で建替えることで取りまとめる作業を行っておりますと いうことを申し上げます。そういったことで、今後こういった基本構 想等を基にして新たな庁舎の設計等に入って参ります。そういった中で、基 本構想の基本方針でも掲げておりますようなそういった市民の方にも親し まれるような施設、庁舎を建てていきたいと考えておりますので、今後とも またいろんなご意見を頂きますようお願いを申し上げます。</p> <p>それからこの委員会につきましては、この委員会の任期でございますが、設 置要綱の中で構想の策定の日までということにしております。そういうこと で、この構想の策定を3月末に予定をしておりますので、それをもちまして この検討委員会については解散とさせて頂きたいと考えております。今後と も皆様方にはそれぞれのお立場からまた貴重なご意見を頂戴したいと考 えておりますので、今後ともご理解ご協力頂きますよう、お願いを申し上げ して、お礼とさせていただきます。</p> <p>長期間に渡りまして大変ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p> |
| | <p>閉会</p> |